



公立学校共済組合関東中央病院（東京都世田谷区）
新家眞院長

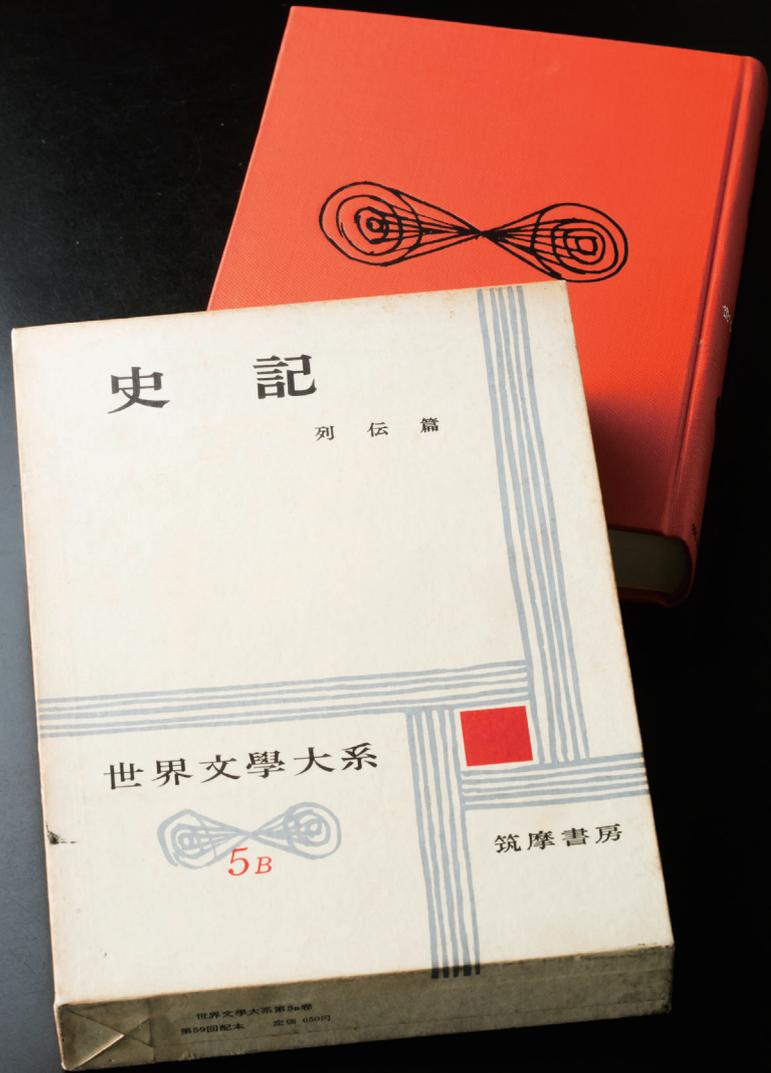
史記

（筑摩書房）

古代より変わらぬ人々の 生き様を教わる一冊



史記にも記載されている夏の王城崗遺跡
（2007年8月の訪問時に撮影）



この本に出合ったのは高校生の頃。受験勉強中に解いた、通信教育の漢文の問題がきっかけでした。当時国語は大の苦手でしたが、内容が非常に面白く、出典は司馬遷の史記でした。早速書籍を購入し、受験勉強そっこのけで読みました。

史記には古代中国の大小さまざまな国の盛衰や政権闘争、人々の生活などが実に生き生きと描かれており、高校生だった私も同じ時代を生きているような錯覚をするほど。故事成語の裏に隠されている、史実に基づいたエピソードを知ることができたのも嬉しかったものです。

なかでも「完璧」と「刎頸（之）交」は特に印象に残っているエピソードです。はるか昔の戦国時代、自国への侵略を狙う秦の昭王に対する巧みな交渉で自国の面目と宝を守った、趙の恵文王の家臣である藺相如の活躍や、自らの不明を潔く認め、互いに首をはねられても変わらないほどの厚い交情を築いた藺相如と名将・廉頗の物語には感激しました。

人生を生き抜くための知恵が詰まったこの1冊。平和な今の時代では、普段の生活に直接活かすことのできる機会はあまりありませんが、1人の人間として「こう行動できれば」と思うような場面がたくさんあり、今でも折に触れては読み返しています。

「火星旅行に本を1冊だけ持っていけるとしたら、何を選びますか」と聞かれたら、私は迷わずにこの史記を持ってスペースシャトルに乗り込むでしょう。